

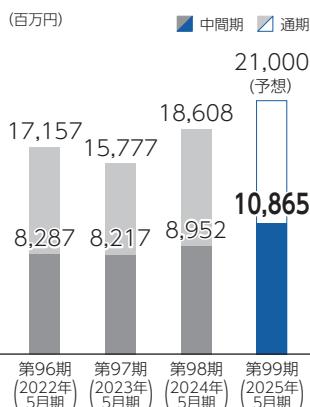
業績のハイライト

2025年5月期中間期 業績

売上高

10,865百万円

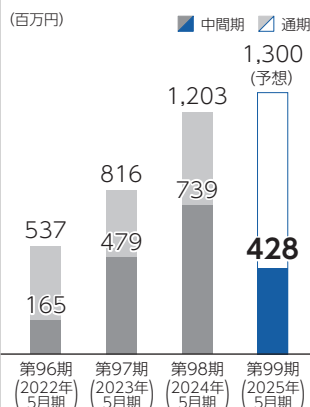
前年同期比 21.4%増 ↑



営業利益

428百万円

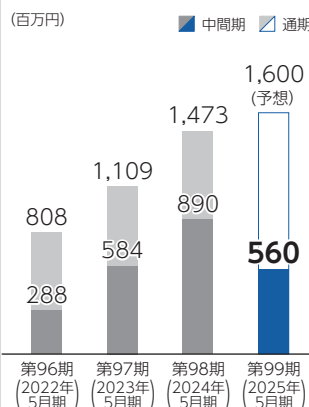
前年同期比 42.0%減 ↓



経常利益

560百万円

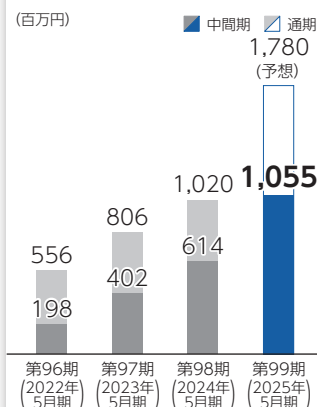
前年同期比 37.0%減 ↓



中間又は当期純利益

1,055百万円

前年同期比 71.7%増 ↑



2025年5月期 通期業績予想

売上高

21,000百万円

前期比 12.8%増 ↑

営業利益

1,300百万円

前期比 8.1%増 ↑

経常利益

1,600百万円

前期比 8.6%増 ↑

当期純利益

1,780百万円

前期比 74.4%増 ↑



詳細は、当社ホームページに掲載されている「IR情報」をご覧ください。

<https://www.nakakita-s.co.jp/ir>

株主のみなさまへ

株主のみなさまには、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
さて、当社第99期上半期(2024年6月1日から2024年11月30日まで)の決算が終了いたしましたので、ここに「第99期中間報告書」をお届け申し上げます。



代表取締役社長 宮田 彰久

■事業の概況

当上半期におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善や、堅調な企業収益を背景に、個人消費・設備投資に持ち直しの動きがみられ、公共投資も堅調に推移するなど緩やかに回復しております。しかしながら、物価の上昇に加え、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産不況の長期化に伴う影響など、海外景気の下振れがわが国の景気を下押しするリスクもあり、景気の先行きは不透明な状況が続きました。

当社の主要な受注先の造船業界では、新造船需要が改善し、手持ち工事量を十分に確保しております。当社は需要が拡大している船用関連に加え、発電プラント等陸用関連においても、国内外で積極的な営業活動を行い、顧客ニーズの掘り起こしに努める提案型営業活動を展開し、受注獲得に努め、修理やメンテナンス関連の部品注文獲得にも注力しました。

当上半期における受注高は、13,956百万円(対前年同期比34.9%増)となり、3,610百万円前年同期を上回りました。品種別にみますと、自動調節弁5,215百万円、バタフライ弁5,394百万円、遠隔操作装置3,347百万円となり、対前年同期比では、自動調節弁は1,282百万円、バタフライ弁は1,568百万円、遠隔操作装置は758百万円の増加となりました。

売上高では、10,865百万円(対前年同期比21.4%増)となり、1,912百万円前年同期を上回りました。品種別では、自動調節弁4,049百万円、バタフライ弁4,271百万円、遠隔操作装置2,543百万円となり、対前年同期比では、自動調節弁は229百万円、バタフライ弁は1,530百万円、遠隔操作装置は152百万円の増加となりました。輸出関連の売上高は、1,550百万円となり、前年同期を321百万円上回りました。当上半期末の受注残高は期首に比べて3,091百万円増の19,225百万円となりました。

利益面では、営業利益は428百万円(対前年同期比42.0%減)、経常利益は560百万円(対前年同期比37.0%減)となり、前年同期を下回りましたが、特別利益として投資有価証券売却益を968百万円計上したことにより、中間純利益は1,055百万円(対前年同期比71.7%増)となり、前年同期を上回りました。

今後の見通しですが、新造船需要が改善しているものの、価格競争は厳しく、中長期的な受注環境は先行き不透明な状況にありますが、一段の営業努力とコストダウン・生産性向上の取組みに一層注力し、年間計画の達成を目指す所存であります。

株主のみなさまにおかれましても、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

NAKAKITA



▲本館

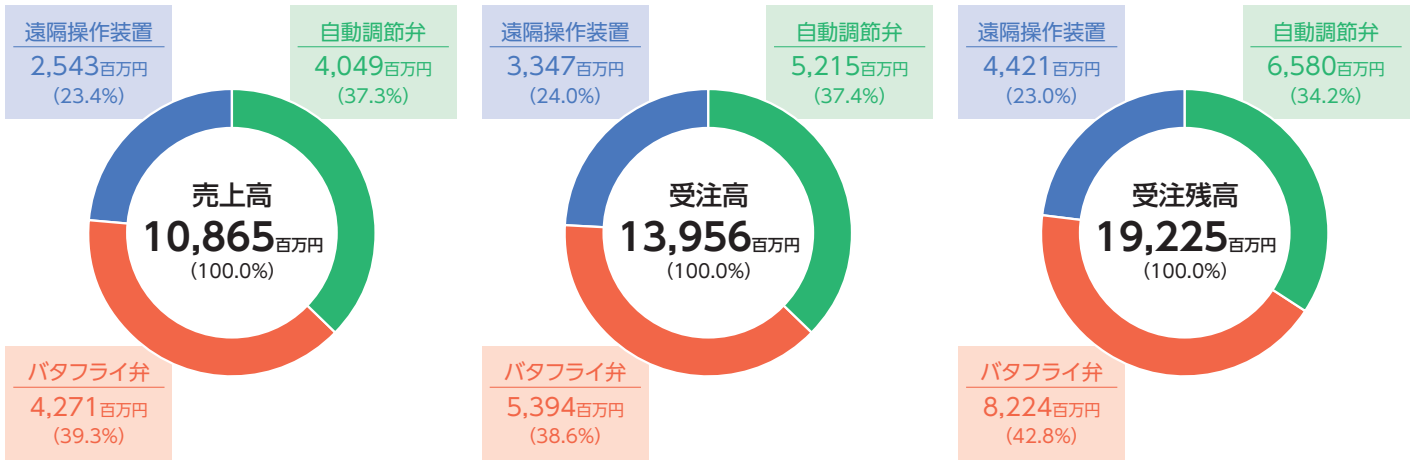
バルブを中心とした 流体制御装置の総合メーカー



▲工場全景

効率化を図った業務体制と先進の設備を誇る製造拠点、
中北のハイレベルな製品はここから生まれます。

当中間期中の品種別売上高・受注の状況



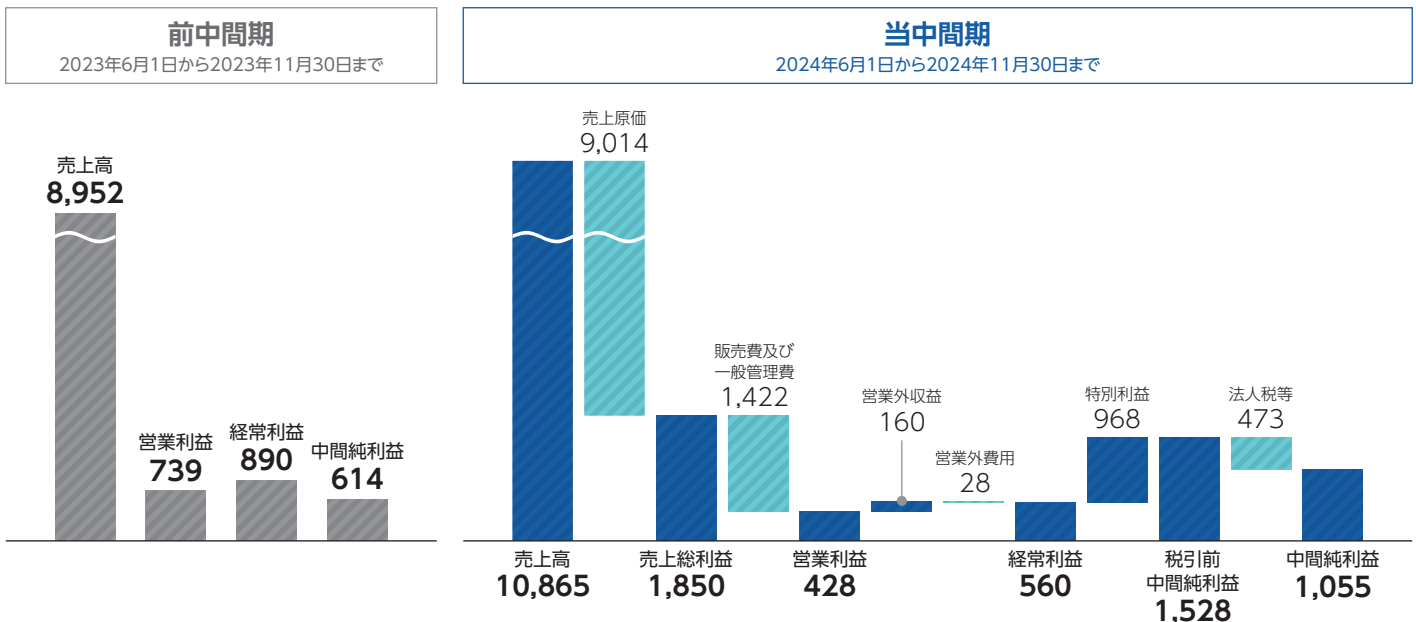
中間財務諸表 (要約)

詳細は、当社ホームページに掲載されている「IR情報」をご覧ください。
<https://www.nakakita-s.co.jp/ir>



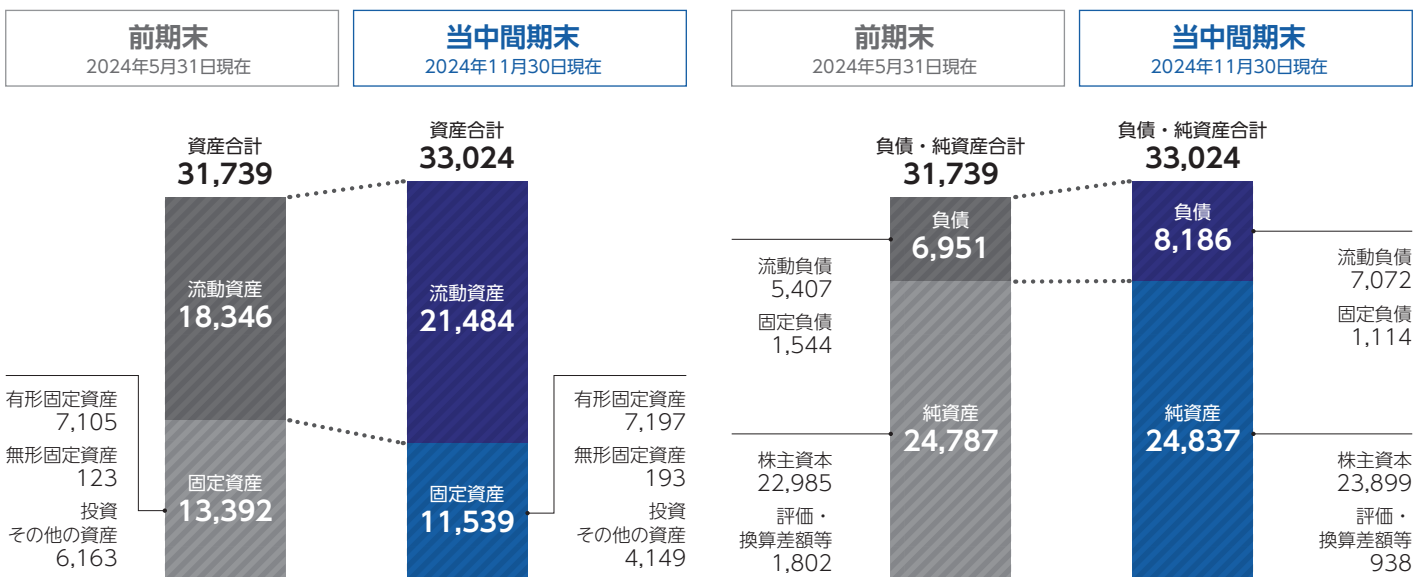
中間損益計算書のポイント

(単位：百万円)



中間貸借対照表のポイント

(単位：百万円)



(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

会社概要

商号 株式会社 中北製作所
 本店 大阪府大東市深野南町1番1号
 会社の設立 1937年5月11日
 資本金 11億5千万円
 主な事業内容 自動調節弁、バタフライ弁、遠隔操作装置の製造販売

事業所所在地

本社・工場 大阪府大東市深野南町1番1号
 電話 072-871-1331(代)
 東京営業所 東京都港区海岸三丁目18番1号
 ピアシティ芝浦ビル3階
 電話 03-4212-6315(代)
 北九州営業所 福岡県北九州市小倉北区浅野二丁目11番15号
 小倉興産KMM別館
 電話 093-531-5481(代)

役員

取締役会長 中北 健一
 取締役副会長 池田 昭彦
 代表取締役社長 宮田 彰久
 取締役 由上 晃規
 取締役(社外) 大井 成夫
 取締役(社外) 福田 あやこ
 常勤監査役 森屋 正利
 監査役(社外) 北山 裕昭
 監査役(社外) 藤井 秀延

株式の状況

発行可能株式総数 15,232,800株
 発行済株式の総数 3,832,800株
 株主数 1,842名

大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社ミヤキタコーポレーション	442	12.52
中北 健一	264	7.50
宮田 彰久	114	3.24
黒田 知子	114	3.23
中北 仁子	114	3.23
渡部 育子	114	3.23
宮田 和子	109	3.09
宮田 宏章	106	3.01
由上 知恵子	97	2.75
中北 節子	93	2.65

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
 2. 持株比率は、自己株式301,853株を控除して算出しております。

株主メモ

事業年度 毎年6月1日から翌年5月31日まで
 定時株主総会 毎年8月開催
 基準日 定時株主総会 毎年5月31日
 期末配当金 毎年5月31日
 中間配当金 毎年11月30日
 上記のほか必要ある場合は、あらかじめ公告して基準日を定めます。

公告方法 当社の公告は、電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行く。なお、電子公告は当社のホームページに掲載し、電子公告を掲載する当社のホームページアドレスは次のとおりであります。
<https://www.nakakita-s.co.jp>

上場証券取引所 株式会社東京証券取引所 スタンダード市場

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。証券会社の口座のご利用がない株主様は、下記の電話照会先までご連絡ください。

株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
 事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒168-0063
 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) ☎ 0120-782-031
 受付時間 9:00~17:00(土日休日を除く)

(インターネット) <https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/>
 (ホームページURL)

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設しております。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先にお問い合わせいたします。

Topics

・当社と株式会社ケーイーアイシステム、株式会社いのくまの3社は、国土交通省が支援する海事産業集約連携促進技術開発支援事業において、「内航近代化に寄与するデータ活用型次世代荷役システムの技術開発」を実施し、2024年10月28日に開催された成果報告会で開発内容を発表いたしました。今後は、本事業の成果である次世代荷役システムを基盤に、さらなる機能改善と高度化を進め、荷役業務における労務負荷の軽減を図り、海事産業の働き方改革と省力化の実現に貢献してまいります。